

著名工事 視察の手引

道路著名工事

- ①東京府放射線及び環狀道路新設工事 ②延長15里幅12間の舗裝道路を新設するものにしてコンクリート、アスハルト等の工事 ③アスハルトプラント、アスハルト撒布機等使用 ④環狀線7.5里の内3.75里竣工(四月末)、放射線7.5里の内2.1里竣工(四月末) ⑤東京府土木部都市計畫課第一道路改修事務所長(澁谷)鈴木善之助氏、第二出張所長(巢鴨)上村爲人氏 ⑥直營及び請負 ⑦昭和5年 ⑧第一事務所は省線エビス驛下車目黒役場へ向つて3丁右手(澁谷町下通り)、第二事務所は省線板橋驛下車大正大學前(西スガモ町スガモ)
- ①芝區札の辻電車通りより芝浦に至る 都市計畫事業街路一等大路第三類第二號路線築造工事 ②③④鐵道東海道線を架道橋により横斷し復興計畫幹線第一號路線に接続する等關係重大擁壁工(鐵筋コンクリート高30尺)を主とす、目下擁壁基礎工事の一部 ④ベテスタルパイル施行中、次いでコンクリート擁壁工に着手 ⑤東京市土木局道路課技手小山斐夫氏 ⑥基礎工事請負者は東洋コンプレツソル會社、他は直營 ⑦一部は本年度施行、完成期は昭和五年度の豫定。

東京附近橋梁著名工事

- ①萬世橋架設工事(東京市神田區) ②假締切代用としてトラフを架設し地下鐵道を同時に施工す ③河底を横斷する地下鐵工事を先にする爲め鋼鐵製溝形を以て河流を通し舟行に支障なからしめ次に下部の工事に着手する、總てスチールシートパイルにて締切を施し地下鐵工事もオープンカットにて施工する諸種の設備あり ④洞渠工事は一部防水工事を残し略完成、現在は橋臺工事を進めつゝあり、懸念されたるトラフ下掘鑿も異狀なし ⑤東京市役所土木局橋梁課技手反町甚三郎氏 ⑥大林組 ⑦昭和5年1月豫定 ⑧省電萬世橋驛又は須田町 ⑨聖橋、お茶水橋、ニコライ堂。
- ①荒川橋架換工事(埼玉縣秩父郡中川村) ②バランスドアーチ式 ③木製デリック及ケーブルを用ふ ④全體の8割竣功 ⑤増田淳氏埼玉縣土木課長澤技手 ⑥日本橋梁株式會社 ⑦昭和4年5月末 ⑧秩父鐵道秩父驛下車自動車にて30分。

東京市下水道工事

- ①芝區田町地内 自札ノ辻至鐵道線路、下水道幹線工事 ②二系統の下水道管渠を一個の鐵筋コンクリート構造物となせしを特徴とす即自然流下により品海に下水を放流せしめ得べき芝、麻布、赤坂、四谷、麴町區方面の高壘用として幅8.0高8.0の矩形渠を

本欄は次の順序に配列記載します

- ①工事ヶ所名稱 ②工事特長 ③工事設備
④工事現状 ⑤工事設計及主任 ⑥工事施工者
⑦竣工豫定 ⑧道順 ⑨附近名勝地

上段に然らざる區域即別途施設の芝浦唧筒場に於て吸揚の上排除すべき麴町、神田、日本橋、京橋、芝四谷、牛込、小石川、本郷、下谷區方面用として幅11.0 高9.0の矩形渠を下段に築造するの計畫なり ③二段管渠 延長410.4 一段管渠(斷面内徑2.0圓形より幅11.0 高8.0の矩形渠に至る)371.0 人孔4個所 分水装置1ヶ所 ④市電軌條のみを残し他は完了 ⑤設計者東京市役所土木局下水課技師山田武治氏、監督主任神田區主任技師吉田茂壯氏、⑥技手稻生達一氏、請負者飛鳥組 ⑦昭和4年5月末。

- ①深川區豊住町地内 木場唧筒場雨水唧筒工事 ②本工事に於て施設する唧筒は軸流型唧筒にして低揚程大揚水量の揚水に當り在來の離心型唧筒に比し其の設計、製作、操作及設備費の點に於て容易低廉なるは勿論總能率に於ても優るとも劣らざるものにしてかゝる状態に於ける水の吸揚に最も適する唧筒なり、歐米には其の例を見るも現在本邦に於て製作設置するものの最大なるものなり ③口径45吋(排水能力一臺100立方尺/秒)4臺(附屬品共) ④ポンプは現場へ持ち込みたるも目下工事中の上屋工事完了に近づくを待つて据付の豫定 ⑤設計者技師根本子之助氏、技師兒玉琢夫氏、監督主任者技師加納豊彦氏、技手益本芳五郎氏 ⑥請負者荏原製作所 ⑦市電洲崎停留場下車、約九町。

東京市内建築著名工事

- ①麴町區永田町新議院 ②日本の代表的大建築(工事畫報大正15年1月號参照) ③鐵骨工事、コンクリート工事、石材工事等に機械的大設備在り ④鐵骨工事を終り混凝土及び石積工事中、全體の約5割竣功 ⑤大藏省營繕管財局にて懸賞設計募集により案を執り同局工務部にて設計及監督、工事場主任技師小島榮吉氏、現場分擔主任技師栗原忠一氏、技師肥塚照次氏、工學士中榮一徹氏 ⑥コンクリート工事全部直轄、他は部分的請負⑦昭和6年 ⑧東京驛より自動車自復20分 ⑨首相官邸、藏相官邸、文相官邸、參謀本部等在り。

地下鐵道工事

- ①東京地下鐵道工事(上野萬世橋間) ②路下式開鑿の地下鐵道として我國最初の工事で第一期線上野淺草間施工の經驗により本區間の設計施工は大に經濟的となりたる事 ③杭打機、掘鑿機 土砂搬出機其他コンクリート施工設備等完備せり ④昭和二年七月鐵抗打込に着手 ⑤東京地下鐵道株式會社建設部技師長遠武勇熊氏、現場主任平田技師 ⑥大林組請負 ⑦四年末 ⑧省線御徒町驛下車又は萬世橋驛下車。

著名工事 視察の手引

東京附近鐵道工事

- ①秋葉原貨物驛改良工事（東京市上野神田間）
- ②二層式設計にして貨物の昇降は専ら「エレベーター」及「シユート」を使用し長尺もの及重量品の昇降には「テレフアー」を使用す ③「スチームパイルドライパー」、「ロコモチープクレーン」電氣「コンクリートミキサー」、「コンクリートシユート」等を使用せり ④全工事の過半部を竣功し昭和三年四月一日より使用を開始し殘部工事中 ⑤監督主任者（土木、建築）第一改良事務所設計掛（機械）工作局、現場監督主任伊本技師 ⑥（土木建築）錢高組、（シユート）東京石川島造船所（エレベーター）日本エレベーター製造會社 ⑦昭和五年度末 ⑧省線秋葉原驛下車 ⑨東京市神田市場工事、地下鐵道工事、上野公園。
- ①下河原砂利採集場（中央線國分寺支線玉川附近）
- ②「ドラッグラインエキスカベーター」若しくは「スチームショベル」にて採掘したるものを構内に運搬し第一篩にて大玉石を抜き之を第二、第三の篩を通すと同時に水洗をなし普通コンクリート砂利、鐵筋コンクリート砂利、の三種に區分する装置とし大玉石は碎機にて破碎したる後第二、第三篩を通すものとす（設計能力一時間五立坪） ③設備東洋第一と稱せらる、尙ほ上記篩分洗滌所の外五十馬力「モーター」により運轉する能力一時間約三立坪の採集船を有し尙「スチームショベル」、「ドラッグラインエキスカベーター」等を使用す ④以上諸機械を運轉する外に人力採掘を合せ年額四万立坪内外を採集す ⑤鐵道省第一改良事務所設計掛（及工作局）、採集現場監督、田尻技手 ⑥（篩分所）錢高組、宮地榮治郎氏、高田商會、荒川製作所、採集船、明石組 ⑦中央線國分寺驛下車貨物列車便乘 ⑧向ヶ丘遊園地、分梅河原古戰場、百草園、大國魂神社。

河川著名工事

- ①目黒川改修工事 ②都市内に於ける河川工事として幅14間延長4081間、運河として内364間を設備す、コンクリート間知ブロックを護岸に使用す。
- ③スチームショベル、ドラッグラインエキスカベーター電氣機關車（土運搬用）等使用 ④全體の約30%竣工、品川町品川橋下より森永橋間を掘鑿及護岸工事中、新國道と舊國道間は竣工 ⑤東京府土木部都市計畫課、目黒川改修事務所長平井技師 ⑥直轄工事 ⑦昭和五年度 ⑧市電北品川終點下車約6丁利田新地。
- ①信濃川補修工事（新潟縣三島郡大河津村附近）
- ②東洋第一を誇りたる大河津分水自在堰が昭和二年六月陥没せる爲め之が復舊を目的とし同時に下流寺泊に至る分水路の補修工事をなすもの工費446萬圓
- ③縮切工事にシートパイルを極度に利用し、サクシヨンドレツチャー、索道、スチームショベル、採石

本欄は次の順序に配列記載します

- ①工事ヶ所名稱 ②工事特長 ③工事設備
- ④工事現状 ⑤工事設計及主任 ⑥工事施工者
- ⑦竣工豫定 ⑧道順旅費 ⑨附近名勝地

設備其他土工用の大機械類を使用せり ⑩昭和二年十二月起工、目下は可動堰工事基礎杭及び固定堰工事鋼矢板打込中にして、第一床固工事は略竣功し第二床固工事施工中なり。五千石及石港兩床留工事は竣功、附帯低水工事40%弱竣功せり ⑪内務省新潟土木出張所長青山士氏、信濃川補修事務所（大河津所在）主任工學博士宮本武之輔氏 ⑫直轄工事 ⑬昭和五年度 ⑭舊越後鐵道線大河津驛下車 ⑮彌彦神社。

北海道鐵道工事

- ①小樽石炭積込設備改良工事（札幌鐵道局工前課）
- ②從來の設備は保修費丈けに年々10萬圓位を要するので今回新設工事着手理立は山土を切り取運搬し護岸にはケーソンを使用する ③コンクリートケーソン製作設備あり ④ケーソン岸壁、鐵矢板岸壁及埋築等並行して施工しつつあり ⑤設計者鐵道局技師板橋三郎氏 ⑥昭和六年度。

〔五月號全譯頁ツヅキ譯文〕

(4) 可變速度の機關を裝置する新式の掘鑿機

市俄古なる北西工業會社に一機軸を出したる新式の掘鑿機がある。其は1929年式の無限軌道にて移動する掘鑿機に配し、加速度調整の可能な動力機を以てしたるものである。機力掘鑿機の如き一機械にして、總ての速度と總ての負荷に對し、適當なる氣化や瓦斯の分布を爲す事は困難であるから、此種の機械に對し、可變速度機關を採用する事は不可能とされて居た。然るに茲に此新式の機械が現はれたのである、此機關は特種多様の氣化裝置が設備されてあり、之に依りて一分間に450乃至1,200の回轉を爲し、隨つて如何なる速度に於ても、有効なる牽引力を出し、加之如何なる速度の急變にも耐へ得る機能を有して居るのである。

人手を借りて機關を操縱するとなれば、頼りとするは唯だ一本の操縦槌あるのみで、此槌は數本の正式の調整槌中の一槌であつて、宛ら扇の要とも謂ふ可き肝腎のものである。操業者が機關の速度を變更せんとする時は、此槌以外の槌には手を掛ける必要がない。北西工業會社は此可變速度機關を掘鑿機に裝置して、試験を爲したる所、其結果は定速度の機關を裝置するものに比し、15乃至20パーセント掘鑿量を増加したとの事である。可變速度機關に頼る利益は多々あるが、就中利益なるは動轉回及び捲揚作業の如き場合、最高速度を出す事を得て、蒸汽機關を眞似る事が出来る事と、今一つは大鐵管の据付或は具狀汲子を正確なる位置に降下し、其閉鎖を容易ならしむる場合に於ては非常に敏活なる取扱を要し、速度を低下する事が出来る等である。